

随想

旅のかたち

20

## 乗りかえて

安水稔和

絵／中西 勝

朝とびおきて、家をとびだす。地下鉄で新神戸へ。みどりの窓口で乗車券と特急券を買って。このごろもって買うことはめったにない。思いたつて前夜宿へ電話を入れて出かけることが多くて、前からきまっている旅行であっても前もって買うのがおっくうで、つい当日駅で買うことになる。改札の手前の売店でいつものように駅弁を買って。いつものようにというのは、新幹線で遠出するときには朝食をとらずに家を出て駅弁を買って車内でたべる、それが楽しみなのだ。お目当てはコウベワインのついたワイン弁当だが、店頭に出る時間がおそくて数もかぎられているそうで、めったに手に入らない。それで、まんなかにご飯があつてそのまわりにちまちまと十数種のおかずが並んでいる変り幕の内ということになる。

乗車券・特急券と弁当、それに缶ビールの三点セットを手に、ホームを駆けのぼって待つことしばし。通過列車が走り抜けて、そこで気づく。上りじゃないか、あれは。とすると、ここは上りホーム。今日は西へ行くんじゃないか。あわてて階段駆け降りて階段駆けのぼって、下りホームに移る。あぶなかつた。一息入ると列車が入ってきた。禁煙車に乗りこむ。ほぼ満席。なんとか座ってなんとなくぼんやり。これは走る筒、座っていればいいだけの、などと考える。駅弁取り出して

目の前に置いて、姫路を出てからたべようと考え。もう着くころなのになかなか停らない。窓の外をのぞくと見おぼえのある西播の山々だ。この列車、姫路にはとまらないんだ。あわてて、とってもあわてる必要はないのだが、とりあえずあわてて駅弁ひろげて、たべおわたとたんに関山。どやどやと人が降り、どやどやと人が乗ってくる。走る筒、そのまま広島まで疾走。

広島で下車。呉線に乗りかえる。各駅停車。向洋、海田市、矢野、坂、小屋浦と駅がつづく。はじめの二つは、むかいなだ、かいたいちと読む。いかにも趣のある海ぞいの地名だ。あと三つは、やの、さか、こやうら。これは読める。海が見える。島が見える。海と山のあいだを電車はゆっくり走る。線路わきのあの浅緑はなに、あの白いものはなに。淡い冬の日ざしのなかの時ならぬいちようの新芽、桜の花。今どきどうして。道を歩いている女。自転車に乗った少女たち。走る犬。

新神戸から広島まで三百キロ、九十分。広島から呉まで二十六キロ、三十五分。新幹線が時速二百キロで、呉線が時速四十五キロ。新幹線と同じスピードで広島から呉まで走ると八分で着く計算になる。八分を三十五分かけて電車が走る。



乗りかえて減速、この感じが好きだ。同じ速さで時間に比例した距離を移動するとき、風景は均質化して目にもとまらぬ。おもうことも均質化して心に残らぬ。減速すれば、山も川も道路も家なみも木も草も人も細部をかいまみせてくれる。乗りかえのときの時間待ちも無駄と思わぬほうがいい。予定になかった時間待ちがおもいがけないありがたい時間。おもわぬものに出会えたりする。花祭へ出かけたときは、豊橋で飯田線に乗りかえて各駅停車、東栄で降りてバスで本郷まで行って、そこで別のバスに乗りかえて下粟代で降りて、暗い山道を笛の音にひかれてたどっていくと花宿の灯が。

奥出雲へ出かけたときは、新幹線で岡山、エル特急で松江、宍道まで乗りついで、木次線に乗りかえて木次下車、バスに乗って出雲湯村で降りて、川ぞいに歩いていくと川に面して湯屋。湯の溢れる気配。

秋山郷へ出かけたときは、新幹線で名古屋、エル特急で長野、飯山線に乗りついで各駅停車、津南で降りてそこからバス、雪の谷を奥へ奥へと分け入る。

乗りかえるたびにどんどん減速して、最後は歩く。人がすくなくなつて、やがては一人。はじめてのところへ、いや、はじめてではない、元いたところ生まれきたところへ戻っていくような、そんな感じで。

まもなく、呉。今日は呉の、広島の人たちに会える。そのうえ、三宅島からやってくるあの詩人に会える。三十年来旧知の、だが会って話すのは今日がはじめてのあの詩人に。その話は稿を改めて。

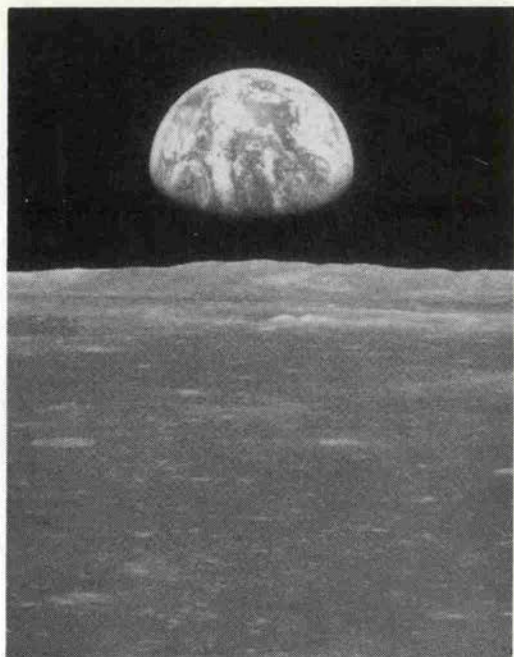
■甲南大学開学40周年記念  
国際学術シンポジウムより

テーマ

現代と“魂”について

アラン・ビーン氏

(元宇宙飛行士)を迎えて



## 都市は 市民の魂

つひにゆく道とはかねて聞きしかど  
きのふ今日とは思はざりしを

生あるものは必ず死ぬ。蜉蝣に比べれば、はるかに長い生を生きる人間も、その影を引き連れて百年を越すことは希である。影が消えると、我々の魂はどうなるのか。魂とは何か。それは一世の詩人が死を前にして歌うまでもなく、洋の東西あまねく人類に普遍的な問であろう。

昨年十二月一日、甲南大学は、神戸商工会議所に於いて「現代と“魂”」をテーマに国際学術シンポジウムを開催した。開学四十周年記念事業の一環として、極めて今日的な課題——脳死や都市環境問題を“魂”の面から考察しようとする。

「現代は科学技術の進歩が特に著しく、その利便性ばかりが注目され、人の心の問題は時として置き去りにされています。折から、一九九二年は国際宇宙年でもあり、宇宙的視野にたつて、科学進

歩と“魂”の問題を考えてみましょう」。甲南大学長湯浅一經氏のこの挨拶には、現代の人間を分析的ではなく総合的にとらえようとする意図が伺える。

科学技術の分野からNASAの元宇宙飛行士アラン・ビーン氏。アポロ12号で月面に降り立った経験を持ち、また現在画家でもある。分析心理学からは、ユング心理学者ジェイムズ・ヒルマン氏、同じく日本のユング心理学の権威河合隼雄氏。免疫遺伝学が専門の東大医学部教授多田富雄氏。それに甲南大学からは学長の湯浅一經氏が物理学の分野の代表として参加した。

ヒルマン氏の基調講演「現代都市文明における魂と美」は、多くの示唆に富む。人間の魂は、美に出会うことで活性化される。都市と対立する自然、すなわち山川草木に交わることで我々の魂は揺れ動かされるが、都市には自然が少ない。しか

し氏は、定義する。自然とは、人間が存在するゆえに自然となる。人間が不在ならば、それはワールドなもの、野生にすぎないと。現在、人の手による自然の少ない都市で、暴力的で野蛮な行為が多発しているのをその顕在化とみる。

自然とは、人間の観念が作り出したものである。そしてその観念、すなわち美を、都市に開花させること、自然と対抗するアポロ的なものから美を解放する必要がある、とヒルマン氏は強調する。

都市は、自然と対立するものではなく、都市こそ人間の観念が表現された自然であり美術品とい



左から河合隼雄氏、J・ヒルマン氏、A・ビーン氏、多田富雄氏

える。ゆえに都市も、「魂」を共有する。都市では、市井の市民が都市づくりのアーティストである。氏は具体を述べる。都市の指導者が美の感覚を持つこと、都市全体のバランスを考え、アーティストのデッサンを組み入れたプロジェクトを実現させることを。

多田氏は、DNAの解明が生命科学に貢献したことを評価しながらも、生命は物質だけでは説明できないとする。人間の自由意思、自意識、条件に応じた反応などの統合した行動は、DNAだけでは説明できない。その統合化は、脳ではなく、「魂」と名付けてよいものかもしれないと述べる。

月から地球を眺めたビーン氏は、生命の母体である地球に郷愁をおぼえる。地球は、氏の親指をかざせば、ちょうど隠れてしまうほど小さかったけれども。

湯浅氏は、生命を物質、エネルギー、情報の統合と考え、それならば「魂」は、その位置をどこに求めるかと物理学者として問題を提起する。

河合氏は、様々な比喻を語りながら、「魂」を定義して固定させるのではなく、「魂」というあいまいなものから現象を眺める重要性を説く。

私たちは現在、特に欧米や日本のように物質文明、科学技術の進歩した国では、「魂」をその非科学的ゆえに排除すべきものとされている。デカルト的思考、すなわち物と心を区別する合理的な思惟に慣れすぎてしまった現代人にとって、「魂」が発する展望<sup>ヴィジョン</sup>、因果律を離れた想像力が必要だろう。そして「魂」を持った都市デザインが重要であることを、このシンポジウムは新たに提出したことになる。

□トランペット片手にブラジル一人歩き〈39〉

## Orlando S Church Street Station



絵と文 右近 雅夫 〔在ブラジル・サンパウロ〕

ディズニールランドで有名なオルランド市はフロリダ半島の丁度真ん中に位置し、Cape Canaveralの宇宙基地からもそう遠くない。建物や道路等全てが真新しく、スペースが充分に取ってある。又、不思議な事に黒人の姿を殆ど見かけないのもニュー・オルリンズと全く対照的である。

僕は家内のマリアと息子のマサオズイニオの三人でホテルで朝のカフェをすませると、車でディズニーの Magic Kingdom に向かった。晴天に恵まれ、朝のハイ・ウェイは交通量も少くドライブには甚だ快適だ。助手席の息子は車窓の風景をガイドオで写している。「マリデイニヨ（ブラジル語で主人を呼ぶ時にこういう）、そんなにスピード出したら駄目よ、ポリシヤに捕まるわよ」と家内が後部座席からがなり立てる。

ホテルを出て三十分程でディズニーの駐車場に着き、モノレールに Magic Kingdom に着いた。入口で四日間通用のパス・ポートを買って入ると、縫いぐるみのディズニーのタレント達が愛嬌をふりまいて迎えてくれる。最初は子供のお供のつもりで行った僕等だが、知らぬ間に子供になつてし

まった様な気持ちになつてしまふ。夕方迄遊んで外に出ると、僕等は夜のハイウェイをオルランドのダウン・タウンに向けて走らせた。サンパウロを発つ時、ディズニールランドに何度も行った事のあるピアニストの Luchin に、「ディズニーへ行くんやったら、夜はオルランドの Church Street Station を見物に行かなあかん」といわれたからだ。

国道四号線を四十五分も走ると、前方に Orlando-Downtown の標識を見つけ、高速から出ると車を高架下のパーキングに止めた。ツーリストで溢れた大通りの方に歩いて行くと、城門の様なアーチの上に Church Street Station と大きなネオンが輝やき、その辺り一帯はまるで不夜城の様に黄金色一色で統一されたイルミネーションが施されていた。「UNO」というイタリアン・レストランに入ると超満員だったがしばらく待つと女の子が空いた席に案内してくれた。隣りに座っていたラテン系の家族連れがニヤニヤしてこちらを見るので良く見ると、各座席に札が付いており、「民主党员」とか、ひいきのフットボールのチーム名

等が書いてある。僕等の席には“Here's where the big Spenders sit”（ここは金払いの荒い奴の座る席）と書いてあった。僕は、「日本人やけど貧乏国のブラジルから来た人から借金しかあらへん」といって笑った。シャリシャリのレタスといせえびのシーフード・サラダがともうまかったので、オルランド滞在中、僕等は何度もその店に足を運んだ。

翌朝から僕等は毎日 EPCOT Center や MGM Studios 等を見て歩き、夜は Church Station に通った。もともとそこには由緒のある鉄道の駅があり、その昔ジョンウエン主演の映画、“Wings of Eagles” に出て来た旧式の蒸気機関車が置いてある。The Exchange Shopping Emporium という年中無休のショッピング・センターがあり、その一画に Rosie O'Grady's, “Cheyenne Saloon”, Orchid Garden, “Apple Annie's” 等数軒のショウや生演奏を聞かせる店がある。“Rosie O'Grady's” はデキシールランド・ジャズ、その他はカウントリー、ロック等、それぞれ特色のある音楽を聞かせてくれ、入場券を買くと六軒の店を一巡してショウが見れる仕組みになっている。僕等はまず “Rosie O'Grady's” に行きステ



ディズニーの MAGIC KINGDOM で家内と

ージの一番前に陳取った。七人編成のデキシールランド・バンドがとても良い演奏を聞かせてくれるが、チャールストンやカンカン踊り、ボーイのコーラス等ヴァリエティに富んだショウだ。最後に Rosie O'Grady's のマム、Laura Lee の登場、まず Cabaret を歌った。拍手が終り、次の曲との間の僅かの瞬間、ヴィデオ撮影に熱中していた僕の方を見た彼女が “Oh, my God!” というなり、舞台を下りて近づいて来た。カメラのレンズ一ぱいに彼女の姿が塞がったかと思うと、“You made me love you” を歌い出したラウラに手を取られた僕は彼女と腰をくねくねしながら踊らされる光栄? に浴した。ワン・コーラス歌った彼女が、“ドーモアリガトーゴザイマス “What is your name? ……” とアナウンスした後、メロディを吹き始めたトランペット奏者が急に腹を抱えて笑い出し、演奏に空白が出来る Happening が起きた。

翌日、いよいよブラジルに向けて出発の日、僕等は朝からチャーチ・ストリートに行って土産物店で買物をしていた。家内のマリアが息子に、「そんなに商品をいじりまわすといかんよ」と叱りつけていると横にいた男が、「そやそや、ブラジル人は何でもいじりよるさかいにな」とポルトガル語で合づちを打った。やはりサンパウロから来たブラジル人のツーリストだったが、ブラジル人はオッチョコチョイなので外国で出会うと、まるで昔からの友達の様にも話しかけるくせがある。同じ調子で僕は空港で会った日本人のツーリストに話しかけ、横を向かれて恥をかいたが国民性の違いであろうか?



□新春ビッグ対談△冒険野郎が語る▽

若人よ!

勇気と冒険心を抱いて  
時代の峰と大洋を征服しよう

三浦雄一郎 △プロスキーヤー▽  
堀江謙一 △プロヨットマン▽

三浦雄一郎氏

司会 現在の日本は、一見平和が続いているように思われます。しかし、世紀末を迎え、世界は激動の時代に入っています。冷戦時代の終焉、ソ連邦を中心とする共産主義国の動搖、また真珠湾攻撃後五十年たった日米の軋轢は、経済面での新たな戦争状態に突入する様相を呈しています。

ここで半睡状態にある我々日本人への警鐘として、世界に冠たる冒険家のお二方に、アドベンチャー精神を語っていただき、次の時代を担う若い人たちを覚醒してもらいたいと思います。

★少年時代の様々な変化の経験は、激動する多様化の時代を乗り越えるスキーマのストックだ。

三浦 僕は青森県の八甲田山の麓で生まれました。青森は冬中雪だらけ。家の屋根から飛び降りたり、坂を滑ったりと、毎日が冒険の連続でしたよ。小学校のころ親父の仕事の関係で仙台に行き、その付属小学校に入れられました。成績のほうはあまり芳しくなく、まあ嫌な学校になるわけです。途中身体をこわしましてね、学校

を休んでしまっんです。快復すると、さあ勉強しなさい、とうるさく親に言われるのでは、と思っっていますと、親父は「病院を退院したから蔵王へ連れて行ってやろう」などと言うんですね。親父には小さい頃からスキーを教えてもらってましたから、親父の気持はよく分かっているのですが、それでもかわった人ですよ。親父は、米寿ですが、今も元気で山を歩いています。今年、モンブランからマッターホルンまで全部歩き通す計画で、三月には、僕も一緒に行く予定です。その親父が、東北大学の山岳部の学生と一緒に言うたのですよ。山岳部のコーチを親父は担当していましたが、なにぶん僕は小学の五年生、しかし自然の中でスキーをするというのは人と競争するのではなく、皆と一緒に楽しむ方がいい……ということ蔵王へ行っちゃいました。僕は子供の頃から無分別でして（笑）、蔵王では急斜面に飛び込んだり、雪崩に巻き込まれたり、と、もう幼い頃から危険な目に会うことになって……（笑）。しかしこの体験が後年役に立ちましたね。五十四歳のときに南極で雪崩に遭遇するのですが、小学校のときのように



堀江謙一氏



スキーごと雪の下に埋まってしまうのではなく、頭を反対にしてスキーをプロペラの翼のようにした恰好がいい、そのほうが助かるチャンスがあると経験から悟ったのです。サバイバルですね。あつという間に雪崩の爆風に巻き込まれて、気がつくのと積った雪の上にスキーを付けたままあぐらをかいてすわっているのです。こんな贅沢をさせてもらっていいのかな、としばらく呆然としていました。(笑)まあ、運がよかったのでしょう。一瞬の出来事でしたが、子供の頃の経験などが浮かんでくるのは不思議ですよ。そういうことから考えると、学校の成績さえよければ、というだけではこれからの激動する多様化の時代は乗り越えられないと思いますね。様々な変化の経験が是非必要でしょう。僕の場合は少し極端ですが、「生きる」ということに関しては、子供の頃の経験が大いに役立っているのを実感しますね。

堀江 山と比較すると、ヨットは安全でしょうね。海には雪崩はありませんし……。 (笑)今までの航海から考えると、ヨットは基本的に安全なものだと思っています。ただ何回か危なかったなあ、ということはありませんね。

南北アメリカ大陸を一周するときに、北極圏の氷の間にはさまれて出られないことがありました。十日間も出られないのです。鯨が氷の間にはさまれたことがニュースになりましたが、僕も同じ場所での経験がありますよ。もしかしたらこのまま出られないのでは、と不安になりましたね。なんとか脱出すると今度は、アリュールシヤン

列島からハワイへ向かう時に、マストが折れ、ヨットが真逆様になってしまいました。ものすごい嵐です。勿論ヨットにはオモリが付いていますから、ひっくり返っても起きあがるのですが、真逆様だとももりが真上にくるようになって、それで安定してしまっんですよ。(笑)

僕はちょうど寝ていたところなんです。海水が半分くらい侵入してきたところで起き出して、なんとか応急処置をしてハワイへ行きました。ヨットのほうは傷だらけですが、僕のほうは怪我ひとつしませんでした。食糧も

足りていましたし……でも勿論ひっくり返ったときは必死でしたが……。

三浦 山の場合は、地続きでしょう。歩かせさえすれば地球上、帰って来れますね。しかし海では……。たとえ岸から百メートルほど離れても嵐がくると帰れないこともあるでしょう。

堀江 雪崩も怖いでしょう。多くの方が亡くなられましたね。植村さんは四十三歳のときでしたか……。スキーは滑っているときも大変でしょうが、そこまでいくのも一苦労だと思いますね。滑るというのは、登る時間から考えると一瞬ですね。

三浦 危険な思いをしながらどうしてこういうことをやるかというと、我々の場合まず基本的なトレーニングがある。用具から含めた準備がある。そして僕の場合ひとりぼっちじゃなくて、チームがあります。エベレストの時など、クォーター入れると全部で千人位のチームになりました。最終的にはひとりぼっちでスタートするわけですが、最終キャンプに到達するには、延々2カ月かかるとは。そこからスタートするには2分40秒くらいです。10年位かけた準備、2カ月かけて歩いて、岩を登り到達する。途中6人死んでいます。それでも行かないといけない。半世紀位エベレスト登山の歴史があるわけですが、その中に、誰かが必ず死んでいるわけです。我々日本人40〜50人のうち誰かが死ぬと決まっているわけです。シェルパーいれて150人、この中で一人以上死ぬというのを皆承知の上で行く訳です。必ず誰かが死ぬと思いつながら行く人間は不思議な意志もっています。そういう集団であるし、個々にとつてはふりかかってくるものを、知つていながら突破しようとする。勇気と根性があつてというんでなく、皆、淡々と仕事としてやっているんです。でも考えてみますと我々、山だから海だからというのでなく、例えばトンネルを掘る時、大きなビルをつくる時、青函トンネルなど、公表できないような犠牲者が出ています。それを考えていくと、人類



ガッツの精神で、困難を切り開かれたお二人。

は現在だけでなく、過去にも地球上で意識をもって生まれる以前から、獣に襲われたり、災害に会ったりして生きのびてきたのです。我々は山を越えて向うに素晴らしき世界があるのではないかと、その理想郷を求めて、いくつかの犠牲を払いながら行く。アメリカの西部の開拓史が示すように、人類は何か移動しながら求めて行こうとする。ですから我々の場合例えば単純にエベレストを滑る、あるいは堀江さんの場合太平洋を横断しようとする。そして一番スケールが大きいのが地球を離れて宇宙のプロジェクトをやることなのでしょう。

★太平洋ひとりぼっち、じゃなくて、多くの人に支えられて完遂しました。

堀江 ヨットの場合は設計する人、つくる人がいて、僕なんかはいつてみればテストパイロットみたいなものです。航海している時、僕の場合は2分半とかそういうことではないんですが。(笑) けっこう時間も長いし、一人で何でもしているように思いますが、毎日無線をつなぎながら、バックアップをもらい、毎日の中間報告をします。それにたずさわっている人も、ヨットに乗っているのと同じ気持だと思います。自分の設計した船がちゃんと動いているのか、とか(笑)。家内も自宅に無線機を置いて、毎日決まった時間に話しています。お早ようございますからはじまりますよ。ああ、今日も無事だったなあと思うんでしょうね。待っている方が心配しているのではないかな。(笑) 先ほどのヨットがひっくり返ってハワイへ1カ月かかって着いた時でも、ひっくり返った時は、無線で、食糧も大丈夫だと言っているんですけど、家族にとっては安心させようといっているのではないかと、大丈夫といっても心配しますね。ハワイへついたら缶詰もまだいっぱい残っているし(笑) 新聞社とか出版社とかにしても、無線で連絡したりすると、出版社だと日記書いているか、とか、ビデオ撮っているかとかいろいろなこと聞いてきます。(笑) いてみ

れば業務ですけど、向うも気持ちはヨットに乗っているのですよ。(笑) 結局ヨットというのはアルキメデスの原理で浮いているわけですから、要するに1mの空間があればそれを沈めるのに1トンの水がないと沈まないです。仲々沈みませんよ。そして人間は何kg食べるかというところも1日1kgとか、されています。1カ月100kgの食料が積めれば充分なわけです。だから重量とのバランスを考えると充分積めるんです。途中で補給できないとすれば、1カ月かかると思えば1カ月半位用意しとかなんといけないと思うけれど、実際は倍位用意しているんです。でもたいたい余るんです。山ではかつがなくちゃいけないでしょう。ヨットは積むんですから痛くもかゆくもない。(笑) 動力源も自分自身じゃないでしょう。寝てても進むんです。ですから意外に食糧とかいうのはあまり問題じゃないんです。サバイバルの件でも、思わぬことというのもあるんですが、問題は思わぬことがおこったというのにどう対応するか、ということなんです。それは例えばヨットが氷山にあたるということがあるんです。寝んでいる間にあたるかもしれない。でも、氷山があるかないかは水温でわかるんです。だいたい水温がマイナス1.8度で、氷結します。塩分が入っていますから、マイナス1度になると気をつけなさいといけません。古い氷が何層新しい氷が何層というように、それをアマチュア無線の人に頼んでおいて、指示してもらいながら進んでいくんです。

★頭張るだけが努力ではない。ときにはじっくりと静観し、待ちの姿勢をくずさないこと。チャンスを探め。

堀江 いろんな写真集を見てこれは南極のどとか、北極のどとか形が違おうのでわかります。それから流れ方、氷も大きいほど流れ方がゆっくりです。ヨットも流れますが、氷に追いつかれると困るんです。風向きその他によってヨットより速く流れる氷はないんです。一番風下においておけば追いつかれることはないんです。そ

ういうひとつのセオリーみたいのがあるんです。ですから、氷いっぱいみえますから北海道でよく流氷が流れてきますが、北海道へ行ったら流氷見に行きましようよと誘われても、見に行きたくもない。(笑) きれいだというだけの見方ではないんですね。寒かったこととか(笑)でも現在は、もう冷静に見れますが(笑)

三浦 それは季節によって大きな変化がありますね。やはり冬が一番厳しい。けれども厳しい時ほど壮麗な美しさというか、吹雪の後、空が真青でつきさすような、そしてきちがいのようにあれた翌朝、世界中の音がなくなつたのではと思うくらい静かです。

南極のドレーク海、無茶苦茶でしょう?。南極はいつでも寒いですから、白夜の夏に行っただんですけど、南極に雨が降るといふの、知らなかったんです。海に近いところは雨が降る可能性が多いんです。行く前想像もしなかったんです。雨降ったあとに、ひょうが来たらマイナス50度の寒気団が来たら寝袋がこおります。それでびっくりしてあわててビニールのシートとか買いあさってもっていったんです。事実上雨にはあたらなかったんですが、みぞれに近いようなのにはあいました。堀江さんみずいぶん風には会ったと思いますが、南極半島の内陸20km程入ったところでは、山がうなりながら、風が遠くからゴーツとジェット機が100機くらい襲ってくるような感じなんです。それでだんだん近づいてきて、風も台風になる。

山にぶつかって、トタン屋根の山があるでしょう。山がトタン屋根みたいになって揺れているような、ムチでトタンをたたいたような、パシーンと。その音だけは表現しえないようなものです。だから時速500キロぐらいの風で、山をたたきつけるんです。で、パーンとテントがつぶされまして、黙ってうっかりすわっていますと、ムチウチになるように、たたきつけられました。そして、テントも登山用具、スキー用具もパーツとさしこんで一晩たつとそれが抜けてふっとんでいるんです。本当にまさに、風の魔王が暴れまわっているようでこれだけは伝説

の世界です。一瞬、3日も4日も続いて、地球上の風が全部ふいているんじゃないかという、それが気になって、ほとんど寝れない。

気がついたらウトウトしているんです。目がさめたらシーンとした世界で、今度は地球上の音が全部なくなっただけではないかと。そして外へ出たら、南極海がキラキラ光って、氷山が浮かんでいる。そして山の方が真青な空です。十時間音ひとつしないんです。くしゃみしたら山じゅう全部反響するんです。無音の世界です。そういう地球に対する不思議な感動といえますか、その一瞬だけは来てよかったです。そんな風を地球上でおれは初めて聞いたんじゃないかと。そういう世界から抜け出して、

又滑っていくという……。

堀江 ああいう寒いところの風というのは、体感とは違う。やはり緯度が高くなると割引きして考えないと。アラスカのマツキンレー、そんなに高い山じゃないのに難所になっています。極地のところというのは同じ風の1メートルでも違うんです。

三浦 マイナス40度での風速10メートルの風というのは、普通の10メートルの風とは違うんです。風速1メートルで、直接皮膚に触ると体温が1度下がる。風速10メートルで体に当たると10度下がる。マイナス20度位の風速20メートルの風がふくと体にはマイナス40度の風があたることになります。



堀江 海の場合も、風があつたりして、今度それをくぐりぬけていい天気になつたりすると、やたらきれいにみえますよ。いつもより本当にきれいなかどうかわかりませんが、命びろいしたあととかいうのは、夕陽ひとつみてもきれいに感じますね。お茶一杯飲んでもいつもよりおいしいですね。(笑) 経験からして、がんばるのも必要ですが、やはり待ちみたいなどころがありまして、自然がほほえんでくれるのを待たないとダメなこともあります。やはり自然というのはこちらの意思が通じないものですから(笑) あわさないとけないときもありま

すね。  
三浦 ただじつとしているのでなく、自分のエネルギーを蓄えて、さらにチャンス待ちベストをつくす。あきらめの待ちじゃなくて希望の待ちですよ。

司会 それはやはり新しい時代への提案だと思えます。しめくくりの話をお伺いしたいのですが、ソ連もかくのごとくあの共産主義が去年一瞬にしてなくなつたというのは世界的に何とも不思議な、そういう時代の中で、日本も実はだんだんソ連と対比して考えても、日本の民主主義はつけやきばだと。なるほど終戦後解放されて、自由主義と民主主義が二つの柱でというのですが闘いとつたものではないですね。これが戦後45年たった今になって、今のところ出てきているのではないかと。これから日本も国際社会の中で非常に厳しい時代に入ってくると思います。これは今いわれていることですが、だから官沢政権が発出したということですが、最後の切り札みたいなものでしょうね。そういう時にあたって、勇気をもってガンバリ、理念をもつということを我々も提案したいのですがその辺はいかがですか。

★実力がある人が弱い人を助けなければ、登山のパーティーは破壊する。日本も世界全体を考えた活動を。

三浦 山では、いくら下界である人は優しいとかあの人は素晴らしいとかいっても、山の上でだんだん極限の世

界になると、例えば単純にいうと体力がないと、あるいは能力、技術がなかったりということになれば面倒みてもらわなければならないのです。ヒマラヤでも6000m 8000m登ると下界で、あいつは嫌な奴だと思つても本当に強い奴が、弱い人の荷物をじやあ俺もつてやるうとなるのです。一番強い、能力のある奴が危険なことを背負いながら突破しないとけない。皆弱いレベルにあわせて、あいつのびたから、じやあ俺もやめようというわけにいかない。

今、共産圏は戦後50年たち、科学技術もあるいは人間の組織も、気持ちも疲労こんぱいしているわけです。優秀な連中は全部反対してろややへ入れられちゃうわけです。あるいはいくら能力があつても、食糧配給のたびに何もなければ勉強もできないわけです。それが今、世界の3分の2だったんですね。

日本は自分の能力が生きるような社会になりつつあります。国としての体力もつているわけです。地球は今21世紀にむけて非常に危険な要素をもち、チャンスはありながら、一方で崩壊しつつある、世紀末の状況です。その時こそ体力があつてつぶれない国というのが人類に対して責任感をもたないといけないのです。その責任感は何かというところの言葉でいうと、お互いに豊かになれる、お互いに自由な中で、人類のもっている可能性というのはいくつもあるのです。

僕らの世界で単純にいうと、スキー人口が1500万人でありながら、世界の売り上げの半分を日本が占めています。ということは逆に考えると、もし日本のスキー熱が冷めて、ものを買わなくなるとすると世界中のスキーメーカーがつぶれるわけです。世界のスキー産業を日本のヤングも含めて日本が支えているわけです。そのうちだんだんヨーロッパの景気が回復するということがあれば、元気になるまで日本は支えてあげる。スキーに関しては今度は長野オリンピック、1998年にあります。これは非常に象徴的に、僕の友人がアメリカで、立

候補して決戦投票で負けたんですが、友達が負けたらくやしいと、国際的にみたら日本はオリンピックのチャンスを得る、意味があるんです。その間に世界のあらゆるものが調和がとれる。すごい大事なことです。

共産主義社会も新しい能力が生かせる。そういうものを理解し、だんだん努力する。今度は少しずつ豊かになりますよ。食べるものもないし、着るものもないんですから。そして少し豊かになったら旅行もしてみよう。次はTVがほしいと。日本のもつ能力工業技術力ももつと必要になるんですよ。今後10年先、それはもつと要求されると思います。単なる金持ちでなく、物をあふれさせるのではなく、精神的な文化も含めてこれからの時代



胸の奥に熱いものをたぎらせたジェントルメン。

は、単なるいいもの、ぜいたくなものというのでなく、精神的なものに今の物質文明を調和させる、例えばかつて日本がそうであったようにモノさえ作れば公害おかないしと。ある程度豊かになって技術が発達したら、公害問題も、自動車の排気ガスもある程度規制される。海への生活排水も含めて、太平洋も少しずつきれいになっていきます。今、発展途上国中国などそんな余裕がないから、地球を汚しながらなりふりかまわずやっています。日本の将来、今のこの景気が陰りがでてくるんだらうというのでなく、その技術がもつと要求される時代がくると思います。それで利益をあげるのではなく、地球をもつと素晴らしいものにしよというものに対して、リーディング国家、登山の場合先頭をきつていかないといけないと思いますね。

我々が例えばエベレスト滑ったとか、堀江さんが地球を一周したとかいうのは象徴的な要素なんです。危険、困難、準備のわずらわしさがあるし、技術も必要。それらをそろえて行ったら、未知の世界から生きて帰ってこれるかかわからないけれども、可能性として自分を信じて、そうして旅立つ。そして成しとげていく……。

堀江 確かに僕らが最初にヨットをやりだした頃は、そもそもヨットとか山とかいうのはヨーロッパの貴族社会からきたことだと思っんです。それはその国が経済的に繁栄することだと思っんです。実際は我々は別に貴族というのではなくて、大衆時代なんですけれども、やはり日本という国が経済的に繁栄しているからできているのでしょう。例えば今一人あたりのGNPが2万5千ドル位でしょう。3万ドル4万ドルになり、まだまだ今三浦さんがおっしゃったように日本の経済的發展、技術的な發展も広がっていくと思います。

国際社会へますます重要性をもつ日本は、言葉の問題を乗り越え、アドベンチャー精神でやってもらいたいですね。

(ホテルゴーフルリッツにて)



■新春さわやか対談

# 感動のエネルギー満ちあふれる 芸術県ひょうごをめぐして

貝原 俊民(兵庫県知事)

新井 満(作家・電通プロデューサー)

個人の生き方が問い直される時代へ

新井 あけましておめでとうございます。

知事 おめでとうございます。

新井 いよいよ新しい年が始まりましたが、この一年はどのような年になるとお考えですか？

知事 昨年後半あたりから景気にも陰りが見られ、国際

的な政治情勢も揺れ動き、ある意味で厳しい年になるのではないかと思います。その中で、今までどちらかというと依存型の行動をしてきた私たちに、これからは自律的な行動が求められる。そういう意味で、自律型社会へのスタートの年になるのではないかと思います。

と言いますのも、戦後の日本は経済的にはアメリカ依存型、政治的にも米ソの冷戦構造に寄り掛かっていたと

ころがありました。私たちの国内体制を見ても、東京一極集中が悪いと言いなながらも、つついそれに依存してきた感を否めません。

ところが冷戦構造が崩れ、これからは経済も日本が主役になっていかなければならない時代です。そして、ソ連やECの事態からも分かるように、世界的な流れとして、国家の枠組みが今までのようには評価されなくなっています。むしろ、それぞれの地域にいきいきとした活力がある社会こそが真の姿なんだ、という動きが出ています。

つまり、世界の中の日本として、日本の中の各地域として、地域の中の個人として、それぞれが自分の力で独自の生き方をつくっていかなくてはならない時代となっているのではないですか。ただ、この潮流は、望ましい方向ではあるけれども、逆に、一人ひとりにとって、きちんと責任を求められる厳しいものになると思いますよ。

新井 昨年十一月にソ連のウクライナ共和国の首都キエ

フに行ってきたのですが、到着する前日に新しいお札ができていて、百貨店に行くと、ソ連のルーブルとウクライナの新しいお札の両方が流通していました。これから大変だなと思いましたが、ソ連邦からようやく事実上独立できたということで、ウクライナの人たちは本当に嬉しそうですね。世界的な潮流、つまり、自分が自分らしくなろうとする、地域がその地域らしくなろうとする民族的な自立のエネルギーは押し止めることができませぬね。よくボーダー・レスの時代だといわれますが、自分たちの文化や誇りを大切にしようとすることによって生じる新しいボーダーが、以前よりもっと明解になってきたなという感じがします。そういう時に、尊敬されるP I（パーソナル・アイデンティティー）を確立した国や地域、あるいは企業や個人が、ある種の畏敬の念をもって遇されると思います。世界的にカオス（混とん）の時代がやって来て、これからいよいよ面白くなってくると思います。

知事 尊敬されるP Iを確立するためには、個人は自分





のことに、地域は地域のことに責任を持って生きていかなければならない。今までのように、自分にとって損か得かという価値基準だけでの行動は認められなくなり、あの人間は立派だ、あの地域は素晴らしいと言われるには、人に対してそれだけの感動を与えることができなければならないわけです。そのためには、いま一度日本人の心に立ち返って、本当に正しいものは何か、本当に美しいものは何なのかという「真善美」のような絶対的な価値基準を中心において行動しなければならぬのではないのでしょうか。そういう点で、今までの日本人の生き方を根本から見直さなければならぬ。人間らしく生きるという言葉は、響きは良いけれども、実際は厳しいことが要求されることを、私たちは覚悟しておく必要がありますね。

ゆとりの中から生まれた、

足し算の時代における引き算の思想

新井 実は私、この十年、環境ビデオをつくっていています。例えば、一本の桜の木を一時間、ズームिंगもパンニングもせずに映している。風が吹くと揺れ、日が暮れていくと微妙に色が変わっていく、ただそれだけの映像です。そういう方法で、富士山や北山杉など百タイトル以上の作品をつくってきました。

全然売れていなかったこのビデオが、数年前から突然売れ始めました。なぜだろうと考えてみたんですが、時代が情報的にも物質的にも、大変な勢いでプラス、プラスの足し算状態をつづけてきたせいではないか。人間というのは、あまりに物や情報が入ってくる足し算ばかりしていると、精神的にバランスを崩してしまふ。そういう時に、ビデオ掛け軸とかビデオ山水画と言っているんですが(笑)、私のつくった環境ビデオをただ何となく眺めることで、空虚の部分の頭の中に生み出し、心をなごませる。日本人もいよいよ、そういう精神的な引き算を必要とするようになってきたんだと思います。いわば

足し算の時代におけるひき算の思想ですね。

知事 今のお話を伺ってノーベル化学賞を受賞された福井謙一さんが「自然の理」を求めているのが自然科学で、自然の法則を追求して発見するのが我々科学者だ。すべて自然に学ばなければならない」という趣旨のことを言っておられたのを思い出しました。私たち人間は、言わば自然の摂理の中で生かされているのですから、自然を抜きにして生きていけるはずがない。この本質を、私たちは忘れかけていたのではないのでしょうか。新井さんがおっしゃったように、多忙な毎日の中で足し算しすぎている日本人が、引き算をするようになったということは、みんながこの本質の部分に気付き始めたのかなという気がします。

新井 引き算をするには、まずゆとりや余裕がなければなりません。その引き算傾向が、いろんなところで出てきました。高度成長期に勢いで儲けばかりに走っていた日本の企業が、どんなに儲けても外国の人たちから尊敬されないとということに気付いてきた。そこで企業メセナ(社会貢献)という形で引き算を始めています。

今の時代は、引き算をすることで全体のバランスを取っているのかなという気がします。

知事 ゆとりや余裕ができて、企業だけでなく、個人も物の豊かさから心の豊かさへと価値観が変わってきたと言われますが、それが行政に対しても現れています。今までは、住民が、どちらかという行政サービスを受けるといふ受け身の姿勢であったのですが、最近では、自分たちのことは自分たちでやらなければならない、という市民の主体性が強く出てきたように思います。

例えば、ゴミはすべて行政がサービスとして処理するものという考え方から、収集してもらおう前に自分たちでやるべきことがあるのではないか、という考え方に変わってきました。ゆとりを持って考えると、自分が自然の中の一つの存在として責任を果たしている時に満足感や心の安らぎを覚え、うまくいかないのは行政のせいだと

簡単に責任転嫁をしても虚しいと感じるようになったのではないかと思います。これも、他人に何かを要求したり期待するだけというこれまでの欲望追求型の生き方に對する引き算ではないでしょうか。

新井 兵庫県では、県民参加型のユニークな芸術文化施策に力を入れておられますね。

知事 芸術文化面でも、観客としての受け手の立場から、自分も創造に参加したいという主体性が県民の中に育ちつつあります。

そういう状況の中で、兵庫県では三年前から、春から秋にかけて「ふれあいの祭典」という県民ぐるみのイベントを行っています。これは、文化やスポーツ、健康・福祉などさまざまな分野のイベントを県下各地で繰り広げ、県民が交流の輪を広げていくものです。そこでは、

県民が親たり聴いたりするほかに、自ら出演したり、スタッフとして活躍しながら主体的にこの祭典に参加しています。昨年は百万人以上の参加がありました。

このように、主体的に芸術活動に参加する県民が多くなり、芸術文化のすそ野が広がっていきますと、頂点も高くなっていきます。

県民の中からも、自分たちのレベルアップと共に、国際的に通用するものが欲しいという機運が盛り上がりつつありました。そこで、高いレベルの芸術文化的風土を持った阪神間で、世界的に注目される一流の芸術文化の交流と創造を目指した「芸術文化センター構想」を進めることにしました。

新井 つまり、儲けるという足し算の視点からではなく、芸術文化を通して生活に真の豊かさをという文化的な引き算の視点でおやりになっているわけですね。

へ、ブライ人の考える四つの理想的人間の条件というものがあります。まず健康です。頑健であるということ。次に財力、お金もちゃんと持っていること。三番目が見てくれ、風采も良いこと。一番面白いのが最後の条件で、音楽が分かるということなんです。音楽というのは象徴的な言い方で、芸術一般を表しているのですが、この四つが満足されていないと、まともな人間とは言えないというわけです。やはり、大昔から人間が最後に行き着くところは芸術だったんですね。

これからは関西・兵庫がおもしろくなる

新井 私はこれまで音楽をやり、映像をつくり、三番目に文学をやってきました。そこで、今年の写真集を出そうと思っています。ちょっと欲張りなんです、最後は画家として死にたいという野心もあるんですけど(笑)。こういう人間になれたのは、やはり神戸に住んでいたおかげなんです。雪国・新潟で生まれた私にとって、神戸の街は大変明るかった。自由にあれこれやってもいいんだというおらかさの影響が大きいと思います。



**知事** 確かに関西というのは、生活の美学というか、楽しさを追求してきた歴史がありますね。京都の着倒れ、大阪の食い倒れと、本当に着ること、食べることに一生懸命になる。そして兵庫、なかでも神戸は、古くは中国大陸、戦前はヨーロッパ、戦後はアメリカを含めた外国との交流の中で、本物とは何か、本当に豊かな生活とはどういうものかを一生懸命追求する進取の気性を培ってきたと思います。

そして今、関西国際空港、明石海峽大橋などの国際的な事業が進む中で、大阪湾ベイエリアが新しく生まれ変わろうとしています。先ほど申し上げたような、ここで生活するには何が本当に楽しいかを価値基準において、さまざまな活動が始まっているような気がするんです。また、兵庫県はアジアとの関わりが深いですから、東洋文化と西洋文化の双方の良さを取り入れ、本当に何が美しく善いことかなどを追求していくと、独自の素晴らしきゾーンができると思います。

二十世紀の香港が面白かったように、二十一世紀は関西が、そして神戸を中心とした兵庫県が面白くなっていくのではという予感がします。

**新井** 兵庫の人は幸せだなあ。とても豊かな県で……。  
**知事** 新井さんにも、ぜひカムバックして住んでいただかなくては(笑)。

**新井** 世界中でどこに一番住みたいかと聞かれたら、やはり神戸かサンフランシスコですね。何しろどこよりも気候がいいし、食べ物美味しいし、海が美しい。

**知事** アメリカでもヨーロッパでも、二十世紀は工業に便利なところが栄えていました。しかしこれからは、アメリカではカリフォルニアやテキサス、ヨーロッパではイタリアやスペイン、南フランスのような温暖でキラキラ輝いて楽しそうなエリアに人が集まってくるといわれています。ですから、日本では、そういう要素を持った神戸から瀬戸内海沿岸にかけての、いわばサンベルト地帯がこれから大きく発展していくと思います。

兵庫県下全域を芸術の舞台へ

**新井** 兵庫県のキャッチフレーズをつくるとすれば、やはり芸術立県でしょうか。

**知事** それも目指していきたい方向の一つですね。

**新井** これからは、感動やときめくものがないとつまらない。そうすると、結局、感動が実感できる芸術によって人間は幸福になれるのではないのでしょうか。でも、芸術を中心に据えている県や市は、日本中を見回しても聞いたことがありませんね。兵庫に行くとか感動がある、芸術家も育つし、県民も一人ひとりが絵を描いていた、音楽をやっていたり、芸術が日常の中に根づいている。そういう県になると素晴らしいですね。劇場都市、劇場国家という言葉がありますが、「劇場ひょうご」みたいになるといいですね。

**知事** 兵庫県には、神戸のような大都市もあれば、日本海に面した豊かな自然が残された但馬のような地域も、播磨のような皆さんさんと光輝く地域もある。よく五弁の花などといいますが、一言で言えば日本の縮図ですね。最近では、交通アクセスも良くなっていますから、手軽に行き来できるようになりました。そういう意味では、パラエティーにとんだ舞台装置がそろっていますね。

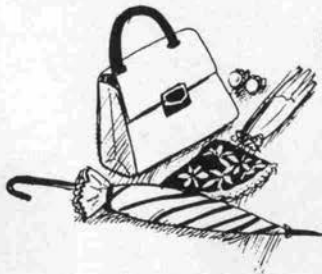
**新井** 神戸はファッション都市宣言をしましたから、今度は兵庫県が「ひょうご・芸術の邦」宣言みたいなことをされると、他県がうらやましがらるでしょう(笑)。

**知事** そうですね。兵庫県全域が芸術の舞台となるような施策を展開して、「芸術県ひょうご」と自慢できるようにしていきたいですね。

**新井** そんな、文字通り感動あふれる芸術県になる日を楽しみにしています。

(兵庫県公館にて)

## 「若返ったら、おしゃれになれた」



**Q** 先日、友人からシワ取り手術のことを聞きました。私も……と思いますが不安で仕方ありません。(56歳主婦)

**A** 一度できてしまったシワやたるみは手術が適当かと思われます。当院では「フェイスリフト」といって、頭髮の中や耳の後ろを少し切開して余分な皮膚を取る方法を行っております。手術後は、小さいテープを貼るだけなので髪でカバーできます。

5～6歳位若返り、お化粧のノリも違ってきます。カウンセリングや診察は無料で行っておりますので一度ご来院下さい。

※年末・年始休まず診察します。

### 〈料金システム〉

(円)

目(二重)	鼻(隆鼻)	唇(上下)	アゴ	ホクロ・イボ	豊胸	脂肪吸引	
片目 8万	両目 12万	23万	25万	23万	1コ 1万～	60万	40万～

## 品川美容外科

神戸 078(331)7183

神戸市中央区三宮町1-3-3  
小林ビル6階

男性専用 078(331)4102

- 東京 ●大阪 ●名古屋 ●福岡 ●鹿児島
- 広島 ●京都 ●横浜 ●千葉 ●仙台 ●札幌



## 着る宝石 オフ・シーズンのケア。



# Good-bye Fur

豪華な毛皮もそろそろオフに入ります。ところがこれがちょっと気難し屋さん。私たちの髪の毛と同じように脂肪分があり、1回の外出でもかなりのほこりや湿気を吸い込んでいます。毛並のツヤや柔らかさをキープするには、いたわるようなアフターファッションが必要です。



Since 1933

本社/神戸市灘区記田町1丁目2-16

- 大阪支社/06-853-1332 ■つかしん/06-420-3754 ■ローブ・ニシジマ/078-332-2440
- 山手店/078-221-2440 ■宝塚/0797-72-0810 ■リフォーム・フルフル/078-221-9110